

第10回 建設業経理士検定試験 1級財務分析

〔第1問〕

増減分析は、当期の財務諸表における各項目の数値を過去のそれと比較して、その増減を分析する方法である。増減分析の手法としては、比較損益計算書分析と利益増減分析表分析の二つに大別される。前者の手法は、一企業の損益計算書の各項目を、前期ないし過去数期間の同一項目と比較してその増減を比較するものであり、それによって経営活動の動向を把握する方法である。また、比較損益計算書とは、複数期間の損益計算書を比較形式で対象表示したものである。しかし、比較損益計算書分析では、いずれの増減項目が最終的な利益の増減にどのような影響を及ぼしたのか、必ずしも明確でない。この欠点を改善したのが、利益増減分析表分析である。後者の手法は、比較損益計算書分析をさらに発展させたものであり、一企業の複数期間の利益を比較し、その増減原因を実数で分析する方法である。また、利益増減分析表とは、比較損益計算書において示された増減額を利益の増減原因別に分類した表である。この分析結果から、どの損益項目が企業の経営成績に大きく作用しているかを把握することが可能になる。つまり、将来の収益性の改善に有用な情報を入手することができるといえる。

〔第2問〕

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
サ	ネ	チ	エ	セ	フ	イ	カ	シ	ア

11	12	13
ナ	コ	ヘ

[第3問]

- (A) 百万円 (百万円未満を切り捨て)
(B) 百万円 (同 上)
(C) 百万円 (同 上)
(D) 百万円 (同 上)
固定資産回転率 回 (小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)

[第4問]

- 問1 ¥ (円未満を切り捨て)
問2 % (小数点以下を四捨五入)
問3 % (同 上)
問4 ¥ (円未満を切り捨て)

[第5問]

問1

- A 総資本事業利益率 % (小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)
B 経営資本営業利益率 % (同 上)
C 完成工事高キャッシュ・フロー率 % (同 上)
D 当座比率 % (同 上)
E 運転資本保有月数 月 (同 上)
F 借入金依存度 % (同 上)
G 有利子負債月商倍率 月 (同 上)
H 純支払利息比率 % (同 上)
I 支払勘定回転率 回 (同 上)
J 付加価値率 % (同 上)

問2

(1)

1	2	3	4	5	6
ウ	ト	カ	ソ	ヘ	シ

(2)

7	8	9
タ	セ	ハ